

# 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 住吉区  
学校名 大阪市立苅田北小学校  
学校長名 中西 泰代

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・苅田北小学校では、第6学年 68名

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の正答率は61ポイントと、対全国平均-6.7ポイントであった。昨年度対全国平均の一2.2ポイントより4ポイントほど下回った。算数の正答率は56ポイントであり、全国平均からは7.5ポイント低い。平均無回答率は国語4.4ポイントで大阪市、全国とほぼ同ポイントであったが、算数は6.2ポイントと3ポイント上回る結果となった。国語は研究教科で校内で取り組んでいるため一定の結果はみられているが、算数に大きく課題が残る結果と考える。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

### 〔国語〕

情報の扱い方に関する問題では92.6%と全国平均の86.9%を上回っていた。しかし、「A話すこと・聞くこと」の設問では全国平均を10ポイント下回りここに課題が大きく見られた。記述式の設問に関しては全国平均を3ポイントほど下回っているが、大きな差はなく書く力については一定の成果が表れていると考える。

### 〔算数〕

どの領域についても全国平均を下回る結果となったが特に数と計算領域について10ポイント以上下回る結果となった。基礎・基本の底上げが急務であると考える。昨年度課題であった変化と関係領域については速さを公式を使って求める問題は76.5%で全国平均を6.5ポイント上回ったが、どちらが速いかを求め、その理由を記述する問題では全国も36%と低いが、本校は16.2%と大きく下回る結果となり課題が残った。

研究教科である国語については、学校全体で取り組み、「学力向上支援チーム事業」を活用して記述式や問題解決の方法について取り組んできたため一定の成果は見られる結果となった。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思う」では昨年度もっとも肯定的な回答をした児童が大阪市や全国と比べて10ポイント低かったが、今年度は約10パーセント高かった。自己肯定感が高まっていると感じているが、肯定的な回答の合計は全国と比べて3ポイント低いのでまだ意識させる必要がある。また「学校に行くのは楽しい」では全国と比べて肯定的な回答の合計が-7ポイント低いことも課題である。しかし、「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」では肯定的な意見の合計が全国を上回っていることから、学校の取り組みや担当の先生を信頼しているととらえることができる。

・昨年度課題としてとらえていた「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方につづいたりすることができていますか」では対全国比が昨年と同程度の一14.2%であったため大きな課題であると言える。

## 今後の取組(アクションプラン)

- ・ 視写や音読などの反復学習を校時表に位置づけ、週3日全校で取り組んでいる。基礎基本を定着させるために漢字については、区の事業での漢字検定の取組を活用するなど、児童の意欲を高める指導を工夫する。算数については単元の学習に関係がある計算プリントを朝の時間に取り組み習熟を図るようにする。
- ・ 質問紙調査より明らかになった「主体的・対話的で深い学び」を実現していくために、各教科において話し合い活動を積極的に取り入れ、話し合いを通して考えを深めていく過程を多く経験できる場面設定をする。
- ・ 各教科とも記述式の解答様式において無解答率が高いことが顕著であることから、自分の考えを表現する力を育成する。そのために、自分の考えの理由や根拠を明らかにして説明したり書いたりする場面を多く設定する。
- ・ ICTを交流のツールとして活用し、活発な意見の交流が図れるようにする。

## 【 全体の概要 】

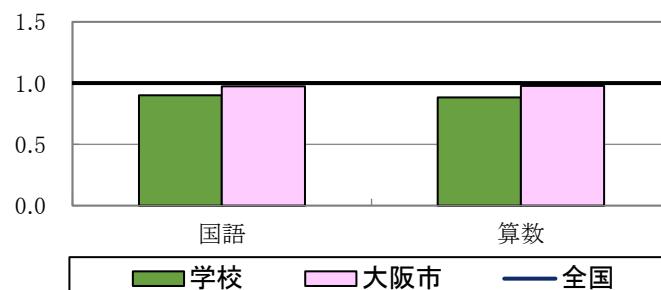
### 平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	61	56
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

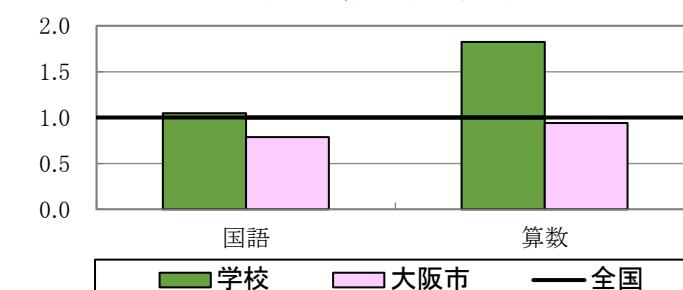
### 平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	4.4	6.2
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



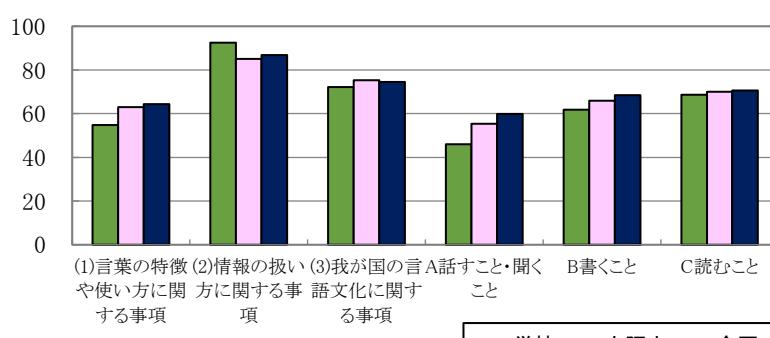
## 【 国語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	54.8	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	92.6	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	72.1	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	46.1	55.3	59.8
B 書くこと	2	61.8	65.9	68.4
C 読むこと	3	68.6	70.1	70.7

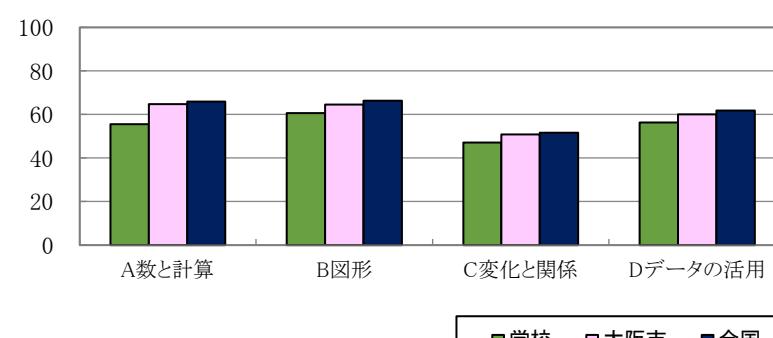
## 【 算数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	55.6	64.8	66.0
B 図形	4	60.7	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	47.1	50.8	51.7
D データの活用	4	56.3	60.0	61.8

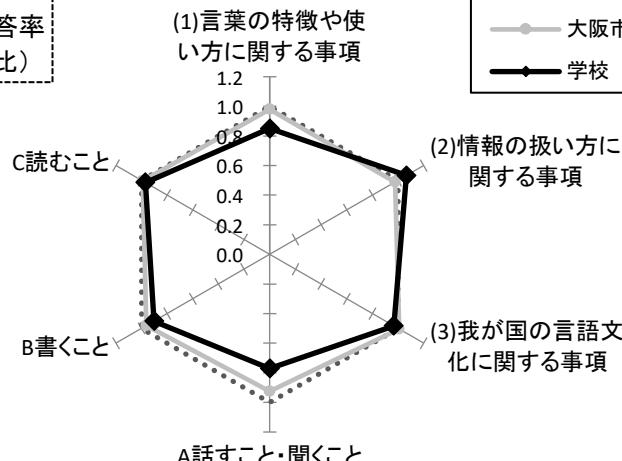
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



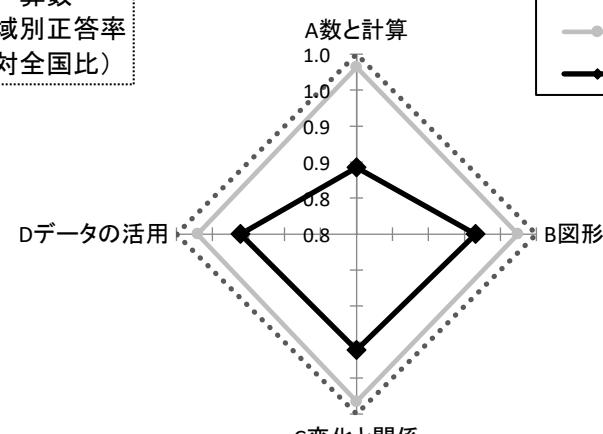
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)



算数  
領域別正答率  
(対全国比)



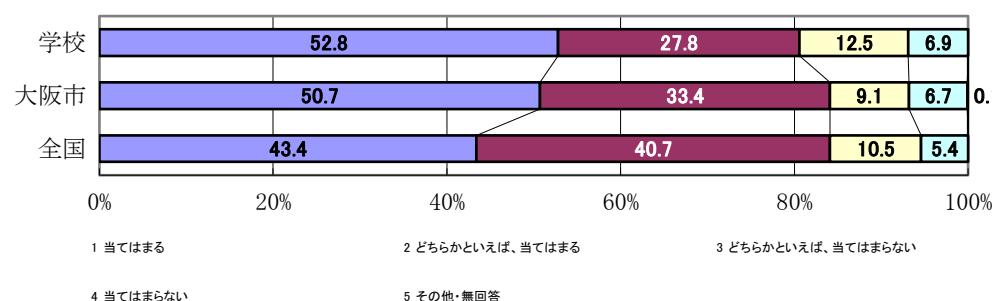
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

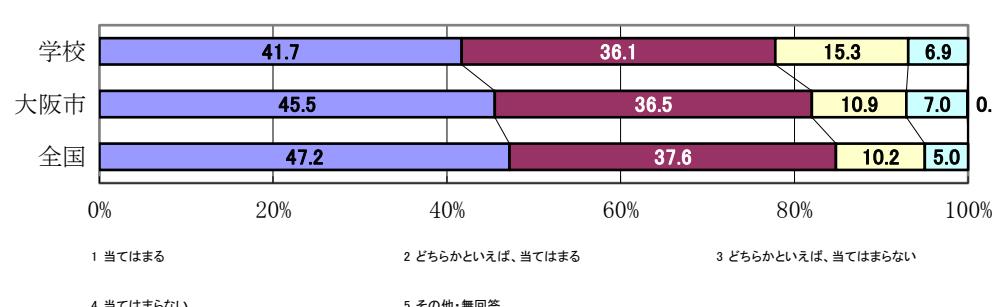
9

自分には、よいところがあると思いませんか



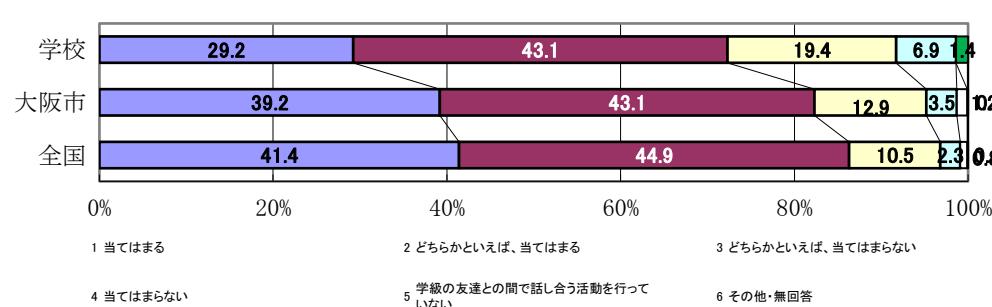
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



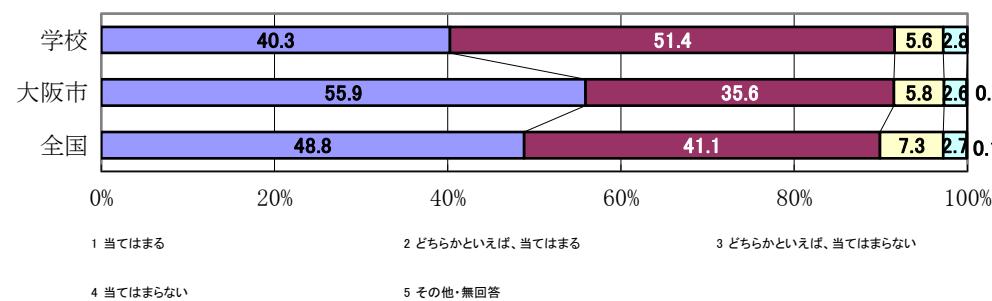
33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか



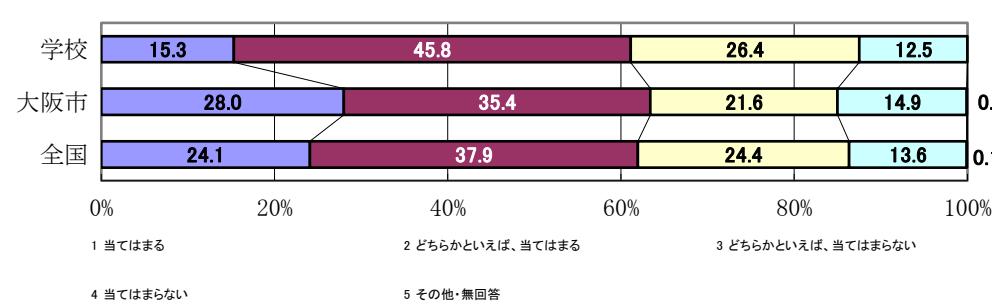
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



42

国語の勉強は好きですか



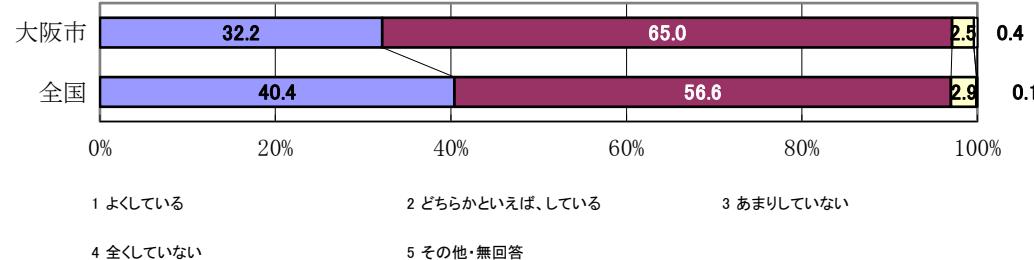
## 学校質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

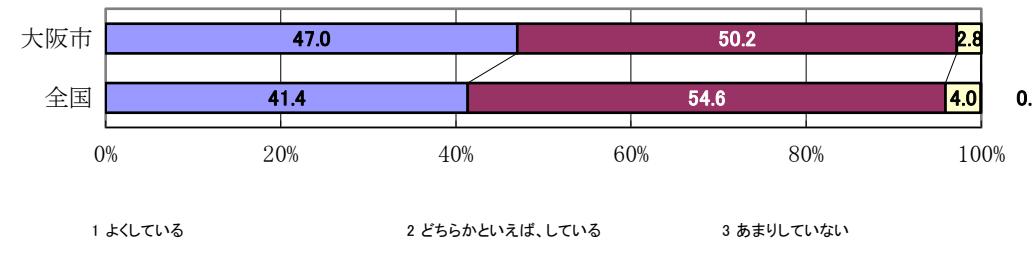
### 学校 「よくしている」を選択



15

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

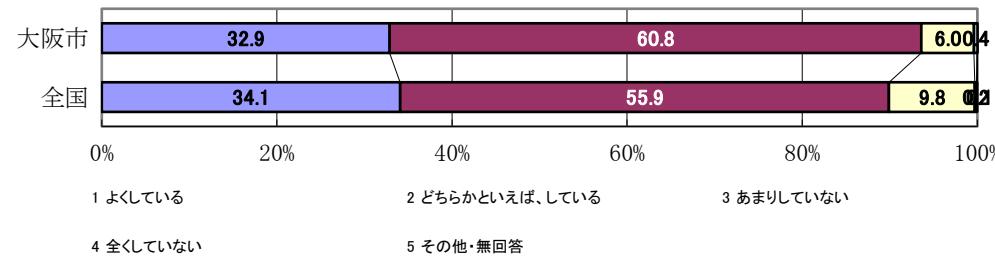
### 学校 「」を選択



17

児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

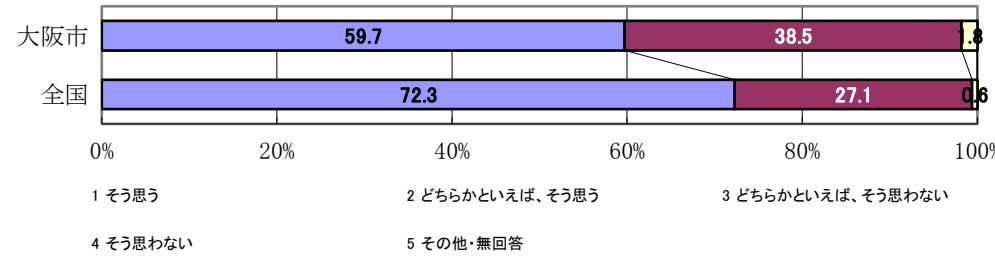
### 学校 「どちらかといえば、している」を選択



23

教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

### 学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



53

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

### 学校 「ほぼ毎日」を選択

